

令和3年度第1回彦根市文化観光推進協議会  
会議録

## 令和3年度第1回彦根市文化観光推進協議会

第1 開催日時 令和4年3月28日(月) 午前10時00分から午前11時00分まで

第2 開催場所 彦根市役所 5階 会議室 5-1・5-2

第3 出席者 出席委員

滋賀大学 産学公連携推進機構 特任教授	上田 雄三郎
滋賀県立大学 地域共生センター 講師	上田 洋平
彦根観光協会 専務理事	矢田 全利
ひこね文化デザインフォーラム 理事長	戸所 岩雄
彦根商工会議所 副会頭	上田 健一郎
彦根城運営管理センター 所長	宮川 敏明
彦根市産業部長	中村 武浩
彦根市都市建設部長	藤原 弘
彦根市歴史まちづくり部長	荒木 城康
彦根市教育委員会教育部長	広瀬 清隆

(欠席委員)

近江ツーリズムボード マネージャー	小島 聖巳
-------------------	-------

◇事務局(市関係所属)

歴史まちづくり部副参事(文化財課長)	井伊 岳夫
彦根城博物館学芸史料課長	渡辺 恒一
彦根城博物館管理課長	堀部 圭一
産業部観光交流課長	成田 卓巳
産業部観光交流課課長補佐	大西 嘉雄
産業部観光交流課誘客推進係長	川口 大輔
産業部観光交流課主任	藤原 千裕

第4 議題

- 1 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について
- 2 彦根市観光振興計画中間見直し案の再調整について

第5 会議資料

- 資料1 彦根市文化観光推進協議会設置要綱・委員名簿
- 資料2 彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画\_概要版
- 資料3 彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画
- 資料4 計画目標の達成状況
- 資料5 地域文化観光推進事業の進捗状況
- 資料6 彦根市観光振興計画中間見直し案の再調整について
- 資料7 彦根市観光振興計画中間見直し案
- 資料8 次期彦根市総合計画前期基本計画(素案)\_抜粋
- 資料9 (仮称)シガリズム観光振興ビジョン原案概要

# 会議録

## 1 文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

### (1) 地域計画について

◆資料2・資料3に基づき事務局から説明

### (2) 計画目標の達成状況について

◆資料4に基づき事務局から説明

### (3) 地域文化観光推進事業の進捗状況について

◆資料5に基づき事務局から説明

#### ○戸所委員

地域文化観光推進事業1-⑤について、彦根城博物館能舞台を活用することだが、茶の湯体験・茶会の開催等に関して、楽々園等、他の文化施設の利用について検討しないのか。

#### ○事務局(文化財課長)

御書院等使える施設が他にもあるため、今後検討していく。

#### ○上田雄三郎会長

地域文化観光推進事業1-③について、大変面白そうで、彦根城の世界遺産登録にもつながるような活動だが、調査するなかで新たな発見があった、もしくは今後そのような可能性があるのか伺いたい。新たな発見があったというような話題があると非常に盛り上がると思う。活動費用も含め、もう少し深く説明してほしい。

#### ○事務局(彦根城博物館学芸史料課長)

彦根藩主の一番近くで仕えていた側役が記した日記が残されており、まずはその内容の分析を進めている。今年度は研究会を4回開催した。

具体的には、殿様の日々の行動パターンや御殿(現在の彦根城博物館)でどのような儀礼が行われていたか等の詳細を明らかにしているところ。

現時点では、新たな発見とまでの成果はまとめられていないが、来年度に向け、例えば藩主が外出をする際に、御殿からどのように出てどの船着き場を利用していたか、どのようなコースを使っていたか等、殿様が使っていた「道」を明らかにしていくことはできると考えている。

また、江戸時代に殿様がどこでどのような活動をしていたかについても具体的に説明していくと思う。

活動費用については、研究会に来ていただいている外部の研究者に支払うための報償費や崩し字で書かれた側役日記を活字にする費用、日記をデジタル撮影する費用等、全体としては150万円前後で事業を展開している。

#### ○上田雄三郎会長

調査の結果を活用したツアーを造成するなど、何か観光の付加価値につながればいいなと思う。

○上田洋平委員

文化観光を推進するということは、交流人口、移住・定住人口の獲得に非常に重要なこと。ここ2年程、コロナ禍で出来なかったことがたくさんあったと思うが、逆にコロナ禍だからこそ出来たこと、コロナ禍から学んだことがあれば教えてほしい。

○事務局

(観光交流課) これまではイベントを中心に集客をするというのが中心にあったが、コロナ禍で一旦立ち止まり、安心・安全を踏まえたうえで、どういう観光施策を展開していこうかと考える時間ができたと思う。これまでの、いわゆるイベント偏重ではなくて、文化観光の計画にも載っているように、彦根城や彦根城博物館を中心に、市内を広く見回し、様々な観光資源を発掘・紹介することで集客できればと考えている。

具体的な事業は現在のところはないが、例えば地域文化観光推進事業1-⑨にあるように、周遊マップの作成や音声ガイドを整備するほか、来るべきインバウンドの復活に向け、彦根市に来ていただく動機付けとなるよう、多言語パンフレットを作成するなど、彦根市の魅力を知っていただき、リピートにつながるような仕組みづくりができればと考えている。

(彦根城博物館管理課) コロナ禍で来館者は苦戦しており、能や小学生を対象としたお茶体験などは中止した。

文化観光事業は即、誘客につながるような事業ではないというのが正直なところだが、例えばキャッシュレス決済の拡大は、外国から来られた方が日本円に両替することなくクレジットカードで支払いができるようになり、利便性が高まるなど、来るべきインバウンドの復活に向けて、準備を進めているところ。

また、先ほど学芸史料課長が説明した文献の調査・研究についても、観光客の来訪を促すコンテンツとなるように取り組んでいる。

ただ、彦根城博物館のコンセプトが「ほんものとの出会い」であり、実際に足を運んでいただき、本物の資料や美術品を見ていただきたいというのが正直な思いであるため、消毒液や検温など、地味な取り組みを継続し、安心・安全に来館いただけるようにしていきたい。

○上田洋平委員

イベントだけでなく、彦根の日常に着目するのはいいこと。彦根に暮らす人々の喜びにつながるものが非常に重要であり、コロナ禍で必要とされていることだと思う。

これだけの事業を実施するにあたり、担当職員の負担等はどうか？

○事務局

(観光交流課) 人手が足りないという認識はあるが、市全体として人手不足であるので、割り振られた業務をきっちりと誠実にこなすという意識で取り組んでいる。

(彦根城博物館管理課) 限られた人員の中で+@の部分をもどのようにこなすのかということが課題であるという認識でいる。やらなければならないことはしっかりと進めていく。

○上田洋平委員

市内には大学もあり、世界遺産の授業を実施している人材もいる。学生を使うにはそれなりの労力や準備が必要だが、何か協力できる部分があれば一緒に考えていけたらと考えている。

○上田健一郎委員

近年、観光情報の提供という側面からも「動画」というものが重要となっているが、計画の中でどのように動画を活用していく予定か？

○事務局(観光交流課長)

世界遺産登録推進協議会でPR動画の作成をしており、文化観光の計画に関わらず、動画はPR媒体として重要という認識でいるため、観光協会や近江ツーリズムボードなど、関連団体が作成される動画等も活用しながら推進を図っていききたい。

○上田雄三郎会長

動画のニーズも高まっており、作成すれば様々な活用ができるので、ぜひ進めてほしい。

○戸所委員

先ほど、資料5に基づいて事務局よりご説明いただいたのは文化芸術振興費補助金対象事業のみであったが、補助対象事業とそれ以外のもので優先順位はあるのか？

○事務局(観光交流課課長補佐)

先ほどご説明した補助対象事業以外についても、文化観光推進のうえで必要な事業として計画しているものであるため、優先順位があるものではない。補助金を受けない事業についても着実に実施していく。

○上田雄三郎会長

上田洋平委員から質問のあった、コロナ禍だからこそできたことという観点は非常に面白い。コロナ禍を後ろ向きにとらえるのではなく、変革のきっかけという前向きなマインドで計画を進めていただきたい。

## 2 彦根市観光振興計画中間見直し案の再調整について

◆資料6・資料7に基づき事務局から説明

○上田洋平委員

現状に即して適切な目標数値を設定するというのは非常に重要なことであるので、その点については特に意見はない。

一方、コロナ禍で、今までの指標のなかでは測れない動きもあるかと思うので、これからの21世紀型観光を見据えて研究を進めてもらえたらと思う。

○矢田委員

このような状況下で中間見直しをすることは妥当なこと。

ただ、この先、コロナが明けるであろうという想定のもとでの目標数値となろうかと思うが、今後さらなる感染者数増加の波が発生する可能性があり、どういった形で目標設定をしていくべきかという点が難しい。

○上田健一郎委員

見直しは妥当。

これからは「持続可能性」ということを考えていく必要があるので、観光客のリピーター率を高められることが理想。もう一度来たいと思わせるような体験が必要。

○戸所委員

コロナ以前の価値観に戻るというのではなく、コロナを経たうえでの新しい価値基準や考え方が人々のなかに生まれていると思うので、そういうものをベースに議論をしながら、彦根の観光の在り方、価値の高め方を考えてほしい。単に数字云々ということだけの観光誘致ではな

く、彦根の魅力はアフターコロナにあって、人々により訴えかける力を持った街であるということであると思うので、そういったことを評価しながら観光施策に活かしてほしい。

#### ○宮川委員

時代に即して見直すということには賛成。

彦根城の入込客数に関して言えば、コロナ禍で目標数値の半分以下というのが現状。

そんななか、コロナ禍だからということで今年度はオンラインツアーを実施した。ネットで予約をして、夜の彦根城を楽しんでいただくということで動画を放映したもの。

驚いたのが、申込者が600名強いたうちの4割が関東圏の方であったこと。

実際に彦根城に足を運ばれる方の4割は滋賀県民、3割は京阪神・中京、関東は1割。

関東圏の方は距離があるから彦根城に実際に訪れることはできないが、それほど多くの方が彦根城に魅力を感じているということが、コロナ禍だからこそわかった。

関東圏の方を呼び込むことができれば宿泊に連動し、将来的には彦根市の経済的な発展につながるのではないかと感じている。

#### ○上田洋平委員

オンラインツアーのような動きがあることが知れて嬉しい。

「21世紀型観光」を「20世紀のものさし」で測るのかどうかということがこれから問われていくと思う。

この計画のなかにも「すこやか」という言葉を入れておられるが、長い目で見て、数値だけでなく、21世紀型のものさしで見るとどうなのかということを意識してほしい。

#### ○上田雄三郎会長

委員の方々の意見をまとめると、中間見直しは必要であるということになるが、再調整するにあたり、どのように進めていけばよいのか？

#### ○事務局(観光交流課長)

具体的な再調整の方法については、委員の皆さまより中間見直しは妥当というご意見をいただいたので、冒頭で事務局よりお話しした計画見直しへの4つの影響要因を踏まえ、事務局で数値目標を含め、本日いただいたご意見をどこまで落とし込めるかということを検討し、再度この場で諮りたいと考えている。

先ほど矢田委員からもご指摘のあったように、コロナが収束するののかどうかといった懸念もあるが、この計画自体が令和7年度が終期となっており、コロナの影響がまだまだ強いという段階であったとしても、令和4年度中には中間見直しをしておかなければ、「中間」ではなくなってしまうため、令和4年度中には何らかの形を作り、皆さまにお諮りしたい。

※令和4年度の会議において、事務局作成の再調整案について意見を伺うこととなった。